

2019年度 永寿基金による研究助成募集要項

助成の目的

現代科学に立脚した各種疾病の成因や予防・診断・治療の方法等についての調査・研究を助成することにより、活動年齢の延長を図ることや地域医療に貢献することを目的とします。

助成対象(調査・研究)

- ・地域中核病院においては、地域住民の健康寿命の増進や小児医療、産科医療、高齢者医療に貢献する調査・研究であること。
- ・地域の診療所や医療関連施設においては、地域医療の発展に寄与する内容の調査・研究であること。

助成件数及び金額

原則として、2件以内、1件につき50～100万円とします。

加えて、助成申請額が少なくても成果が期待できる応募には柔軟に対応します。

募集期間

2019年4月1日～2019年5月31日(予定)

(当日消印のあるもの有効)

提出書類

調査・研究助成申込書(申請者の経歴書を含む)

選考および助成の決定

2019年6月末(予定)

選考方法

応募された助成案件は、永寿基金運営委員会において調査・研究内容を評価し、助成対象者ならびに助成金額を決定して、財団の理事会の承認を得て、委員会より執行いたします。

採否については、決定次第、応募者宛に個々に通知します。

申込方法

当財団所定の申込書に必要事項を記入し、署名捺印の上、送付をお願いします。

申込用紙は、ホームページ上からダウンロードしてご使用になれます。

郵送を希望の場合は、応募申込者の団体名、郵便番号、住所、氏名を記載して下記にFAXまたは郵便でご請求下さい。

申込書請求先および提出先

〒110-8645

東京都台東区東上野二丁目23番16号

公益財団法人ライフ・エクステンション研究所 事務局

電話 03-3833-8381

FAX 03-3831-9488

結果報告

2020年5月31日までに研究報告書を提出して下さい。

報告書については、ワープロ・パソコンを使用し、A4サイズで3～7枚程度(最長で15枚まで可)(図表を含む)とします。作成にあたっては、当財団発行の機関誌「ライフ・エクステンション研究所紀要」投稿規定(添付資料参照)に準じた原著様式として下さい。なお、提出のない場合は、助成金を返還して頂きますのでご留意下さい。

助成金の使途についての書類(会計報告書)もあわせて提出して頂きます。

なお、研究報告書は、前述の「ライフ・エクステンション研究所紀要」に、永寿基金研究助成成果として掲載し発表します。研究報告をされた団体、個人には紀要を配布しません。

その他

- (1) 申し込みは1団体または1個人1件に限ります。
- (2) 共同研究の場合は、共同研究者の同意を得ていることを必要とします。
- (3) 助成の期間は、助成決定日より2020年3月末日とします。
- (4) 研究報告を他に発表する場合には、当財団の「助成」であることを明記して下さい。
- (5) 助成に対しては、提出書類の他に所属機関長の承諾書およびその他必要書類の提出を求める場合があります。
- (6) 他から助成を受けている場合には、その旨を必ず記入して下さい。

以 上

ライフ・エクステンション研究所紀要 投稿規定

1. 本誌は、公益財団法人ライフ・エクステンション研究所の事業活動並びに附属機関である永寿総合病院、永寿総合病院柳橋分院及び永寿総合健診・予防医療センターの学術活動の集録を目的とし、総説、原著、症例、短報、C.P.C.、雑報のほか学術講演抄録、学会記事、病院統計等を掲載する。
2. 原稿の採否、掲載順、印刷の様式等は編集委員会が決定する。また、原稿の体裁、長さ、文体等について著者に改定を求めることがある。
3. 校正は初校、再校とも、著者校正とし、校正が指定の日までに返送されないときは編集委員会の責任校了とする。再校に際しては、誤植以外の訂正、削除、挿入は許さない。
4. 原稿はB5判、400字詰原稿用紙を用い、原稿の長さはおよそ次の通りとする。

総説 1編 20枚以内（図表を含む）
原著 1編 30枚以内（図表を含む）ただし学術集会報告はこの限りではない。
症例・臨床報告・病院業績および統計は20枚以内とする。
5. 別刷は20部まで無料とし、これを超える分は著者の負担とする。
6. 原稿の送付は、永寿総合病院事務局内編集委員会宛とする。
7. 本文執筆には、次の点に留意する。
 - (a) 原稿の表紙に表題、著者名、所属施設又は科名、別刷希望部数をこの順序で記す。
 - (b) 本文は横書き、常用漢字、現代かなづかいによる。（ワープロの使用も可。但し字数などは原稿用紙に準ずること）
 - (c) 表および図（写真）は本文とは別に添付する。表はTable、図はFig. 表記とし、それぞれTable 1, Table 2, およびFig. 1, Fig. 2のように通し番号をつける。

表の説明は上に、図の説明は下を書く。また、図表の挿入箇所を本文中に指定する。
 - (d) カラー写真は学術的に必要なもののみに限る。
 - (e) 外国語は原語で記すかカタカナ書きとする。
 - (f) 数字は、アラビア（算用）数字。単位記号（数量、温度など）は、次に準じること。m, cm, mm, μ m, nm, cm², l, ml, kg, g, mg, μ g, °C, %, など。
 - (g) 薬品名は一般名で書く。
 - (h) 引用文献は出現順に番号を付し、本文の終わりにまとめて記載する。

題名は完全に記載し、著者名は2名以上の場合筆頭者以外は「ほか」または「et al.」とする。
(但し2名のときは併記も可)

外国雑誌はIndex Medicus 邦文雑誌は日本医学雑誌略名表による略名を使う。
文献の書き方は次による。

雑誌の場合：引用番号、著者名、論文名、誌名、巻号、頁、発行年（西暦）
単行本の場合：引用番号、著者名、引用巻章節名、書名、版数、発行社、発行地、頁、発行年（西暦）

(例)

 - 1) 岡部貴裕ほか：吸入性抗原の関与が考えられたネフローゼ症候群の一例。日児誌。85(3)：299, 1981.
 - 2) Yang WH and Osterland CK：Circulating immune complex during immunotherapy. J Allergy Clin Immunol. 63(1)：300, 1979.
 - 3) 松本育三：免疫不全症候群。医科免疫学。第二版。南江堂。東京。424頁。1979.
 - 4) Buckley RH：Disorders of the IgE System. Immunologic Disorders in Infants and Children 2nd ed. Saunders Company. Philadelphia. pp274-276, 1981.